

1. はじめに

- ・日本経済は厳しい状況に直面している。
(人口減少、少子化、高齢化、不透明な財政健全化、国際競争の激化など)
- ・東京一極集中は集積のメリットが認められる一方、「ナショナル・レジリエンスの観点」や「混雑、通勤の長時間化等による経済損失のデメリット」等は無視できない。
- ・首都圏に次ぐ人口規模、経済規模を誇り、多くの強みを有する関西経済の底上げは、関西自身のためのみならず、日本経済全体の成長にも欠かせない。

2. 関西の現状(SWOT分析)

・実質GRP(域内総生産)の推移・年平均成長率をみると、2001年度から2012年度にかけて
関西：79.1兆円→83.7兆円〔+0.51%〕 首都圏：158.1兆円→180.9兆円〔+1.23%〕
東海：60.6兆円→69.1兆円〔+1.20%〕 関西経済の成長は微増に留まる。以下に特徴を整理。

2-1. 不可避の人口減少、人口構造の変化

- (強み) 世界第14位の人口規模
- (弱み) 低い女性就業率
- (機会) 高齢化の進展による健康・医療需要の増加
- (脅威) 人口減少に伴い縮小する消費、深刻化する人手不足

2-2. 訪日外国人急増による経済的恩恵の享受とボトルネックの顕在化

- (機会) アジア諸国の経済成長等による訪日外国人観光客の増加
- (弱み) 受入体制のボトルネック(宿泊施設、バス、CIQ等)

2-3. 高度かつ多様な産業に強みを持つ一方、企業を惹きつける吸引力に課題

- (強み) 多様な産業構造、高い競争力を持つ企業も多数集積
- (弱み) 企業の継続的な転出超過

2-4. 技術革新の可能性

- (強み) 民間人の自由で先進的な発想によりイノベーションを生み出してきた土壌
大学、研究機関、企業のR&D拠点等の豊富な知の拠点の集積
新産業を創出するためのオープンイノベーションを促進する場の整備
- (弱み) イノベーションを妨げる企業内、企業間の意識の壁
- (機会) 情報処理技術の向上等によりIoT、ビッグデータの活用が可能に

2-5. 歴史・文化の蓄積

- (強み) 国宝、重要文化財等、豊富な観光資源が存在
豊富なスポーツ、エンターテインメントの拠点
- (機会) 2019・20・21年の3大スポーツイベント開催によるエリアブランド向上の機会

2-6. 豊かな産業基盤

- (強み) 整備された鉄道、高速道路によるコンパクトな多核型都市構造、自然も近接
経済成長が著しいアジア諸国との距離的な近さ、整備された空港・港湾
国家戦略特区等による規制緩和体制の整備
良質な住環境
企業の事業活動を支援する活発な財界活動
- (弱み) 不十分なMICE機能(ハード、ソフト)
高速道路ミッシングリンクの存在
都市間連携に乏しい政策
- (機会) 関西国際空港、伊丹空港一体運営によるポテンシャル発揮
- (脅威) 国土軸不均衡の拡大(リニア全線同時開業、北陸新幹線延伸の遅れ等)

3. 関西が目指すべき姿

- ① **交流人口増加によるにぎわいの維持・向上／消費の維持・拡大が実現する地域**
 ➤ 歴史・文化の蓄積等に強みを有している関西は、今後も増加が見込まれる訪日外国人観光客の需要を取り込むことで、人口減少に伴うにぎわいの喪失、消費の減少を補完すべきである。
- ② **「知の探索・交流・結合」によりイノベーションが連続的に起きる環境がそろう地域**
 ➤ 持続的な経済成長にイノベーションは不可欠である。関西には、多様な産業・企業が集積しており、大学や研究機関等「知の拠点」も豊富にある。新産業を創出していくために、創業や企業の新事業展開を支える一層の環境整備が求められる。
- ③ **事業のベースとなる産業基盤が維持・整備されている地域**
 ➤ 経済活動は、様々な産業基盤に支えられている。関西は、既に豊かな産業基盤を有しているが、今後の経済成長に向け、これを維持、強化していくことが必要である。

4. 関西の成長戦略～目指すべき姿を実現するために～

4-1. 一層の訪日外国人客需要創出を

- **観光振興を総合的にマネジメントする組織(DMO等)の整備によるマーケティング活動の強化**
 - ・観光コンテンツ拡充(観光資源維持・整備、旅行商品開発、エンターテインメント強化等)
 - ・プロモーション強化
- **ボトルネック解消に向けたインフラ整備**
 - ・IR等MICE施設の拡充、宿泊施設・バス不足の解消、CIQ体制の強化等
 - ・多言語対応等

4-2. 経営マインドセットの革新を促す事業環境の整備を

- **企業の成長(製品・サービスの高度化、生産性向上による高付加価値化)を支える仕組みの拡充**
 - ・イノベーション支援(企業の新事業展開・創業の支援(インキュベーター・コーディネーター(組織)拡充)、オープンイノベーションの場作り、リスクマネー拡充)
 - ・国家戦略特区の活用等による岩盤規制改革(ex **健康・医療関連産業**)
 - ・産業振興に資する政府機関の機能拡充(ex.PMDA-west、AMED-west)
 - ・ICT、IoT技術の利活用によるビジネスモデル高度化促進(ex **新しいものづくり**)
 - ・ダイバーシティ推進のための環境整備
 - ・事業の新陳代謝の促進(廃業支援、セーフティネットの拡充)

4-3. コンパクトな多核型都市構造を最大限に活かしたまちづくり、ひとづくりを

- **交流促進、人材育成のベースとなるインフラの拡充**
 - ・交通インフラ拡充(時間距離の短縮による域内外交流促進、通勤・通学負担軽減)
 - ・情報通信インフラ拡充(通信網の拡充やセキュリティ対策の支援)
 - ・高度人材育成機関の拡充
 - ・良質な住環境整備
 - ・防災、減災も含めた災害に強いまちづくり

5. さいごに

- ・関西が目指すべき姿を実現するためには、産・学・官・労・金・言・住が「和して同ぜず」の精神を持ち、価値を共創していくことが求められる。